

2021年2月14日 (No46)

主日礼拝

司会：伊藤知之 奏楽：松村宣恵

前奏 讃美歌 85 (二回) 祈り 聖書

イザヤ書30章8~17節 (旧約聖書1107頁)

マタイ福音書14章

22~33節 (新約聖書28頁) 司会者

讃美歌 8 一同

説教 「水の上を歩く」 五味 一 牧師

讃美歌 287 一同

献金と感謝の祈り 一同

主の祈り 62 一同

頌栄 キリストの平和が (1・5) 一同

祝福 一同

報告 一同

新しく来られた方・久しぶりの方の紹介

【本日の集会】

主日礼拝 午後2時 カフェ・ぶらぶら

お茶の会 コロナウイルス感染防止のため休会

【今週の集会】

一緒に聖書を読み祈る会 カフェ・ぶらぶら

2月17日(水) 午後7時

ゼカリヤ書4章1~14節

(旧約聖書1483頁)

讃美歌 219、521

【次週の予定】

レント第1主日礼拝

2月21日(日) 午後2時 カフェ・ぶらぶら

聖書 申命記30章15~20節

(旧約聖書329頁)

マタイ福音書4章1~11節

(新約聖書4頁)

分かち合い礼拝 聖書の言葉と一週間

みんなで

讃美歌 355、284

【来週の礼拝司会者を決めましょう】

- ① 和田智子 ② 広瀬秀幸 ③ 秋山里子 ④ 佐々木実 ⑤ 吉田公子 ⑥ 伊藤知之 ⑦ 山根耕平 ⑧ 岸澤恵美 ⑨ 高崎晋 ⑩ 山本潔 ⑪ 早坂潔

【集会統計】

Table with 3 columns: 集会名, 参加者, 献金. Rows: 主日礼拝 (20名), 祈禱会 (9名).

◇第6回定例役員会から 2/7(日)カフェぶらぶら

- 1. 「第5回定例役員会議事録」「第3回臨時役員会議事録」「月別会計報告」を承認。 2. クリスマス礼拝・祝会、キャロリング、合同イブ礼拝(43名)、会堂感謝礼拝、元旦礼拝を振り返った。 3. 2021年度教会総会の準備(継続) 21年度定期教会開催日 4月25日(日) 4. 1月末募金総額: 36,376,685円 総収入: 56,615,249円 1月末支出総計: 4,595,818円 差引残高: 52,019,431円 5. 第4回臨時役員会(議題「納骨堂について」) 3月15日(月) 18時30分。 6. 工事中工祝福式は3月28日礼拝後を検討する。

♪ 本日の讃美歌 ♪

♪ 讃美歌287「ナザレの村里」。この讃美歌は、1900年にプロテスタント各派が協力して讃美歌委員会を組織して、1903年に日本で最初に出版された『讃美歌』に収められて以来、多くの人々に親しまれてきました。作詞はイギリス人司祭ジョン・ガーニー(1802-62)。曲は東方教会の礼拝音楽指導者ロシア人ディミトリ・ボルトニャンスキー(1752-1825)。

頌栄 キリストの平和が

- 1. キリストのへいわが わたしたちのころのすみずみにまで ゆきわたりますように 5. キリストのゆるしが わたしたちのころのすみずみにまで ゆきわたりますように

【先週の説教要旨】「わたしの不安を越える神の思い」 列王記下 15:15-19a  
マタイ 15:21-31

列王記は、預言者エリシャの奇跡物語の一つ。エリシャはイスラエル王国が分裂した後、前 850 年ごろ北王国イスラエルで活躍した預言者です。イスラエルの北東に位置するアラム王国の將軍ナアマンは悪性の皮膚病に苦しんでいました。彼のもとに、イスラエルから捕虜として連れて来た少女がいました。彼女からエリシャの話聞いたナアマンは、王を介してサマリヤにエリシャを訪ねました。

訪ねてきたナアマンに、エリシャは直接会うことをせず、ヨルダン川に行つて七度からだを浸すよう、使いの者を出して伝えました。回復を喜んだナアマンは誇大な謝礼を申し出たが、エリシャはこれを断りました。そこでナアマンは帰国後、エリシャの神(ヤハウエである唯一の神)ではなく、アラムの王に仕える將軍としてリモンの神殿にひれ伏すことを赦してほしいと願いました。エリシャは「安心して行きなさい」(列王記下 15:19)と、彼を祝福して送り出しました。ここには、わたしたちと同じ、多神教の世界に生きる者の苦悩が物語られています。

イエスは異邦人の地に出かけたのでしょう。その地方出身の女性が、病気で苦しむ娘を治してほしいと願い出ました。弟子たちが、「うるさいからこの女を追い払ってください」と言うほどに、女はしつこく着いて来ました。イエスは「私は、失われたイスラエル人のところにしか遣わされていない」と断りました。それでも女はイエスに懇願しました。ついにイエスは、「子どもたちのパンを取って、小犬たちに投げてやるのはよくない」と、冷たく女を突き放しました。「...でも、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただきます。」と、女は引き下がりません。凄い母親です。

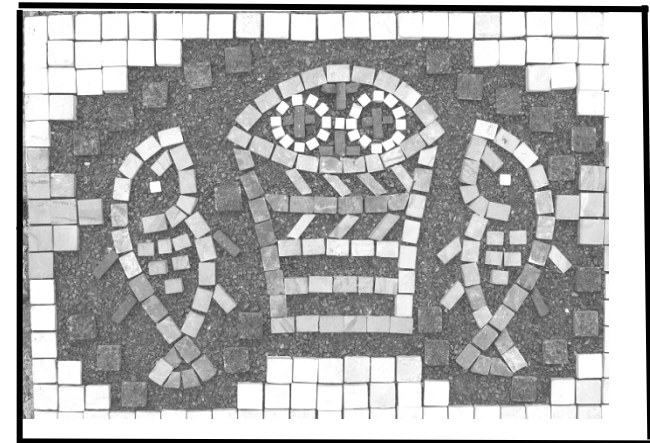
この個所をイエスのカナン人=先住民への蔑視、差別だとする者、信仰の熱心さや謙遜の模範だとする者もいます。どちらも的を外しているでしょう。マタイ福音書がもともとユダヤ人キリスト者の集りの産物であったことを考えれば、ユダヤ人の立ち位置からの、異邦人へのイエスの働きかけと読めるでしょう。また女の姿勢は信仰の模範というよりは、母親のそれでしょう。愛する娘の病気に心痛めない親はいません。「父がその子を憐れむように、主は主を敬う人を憐れんでくださる」(詩 103:13)、神の本質があらわされています。

ここには、「こんなことを言っても聞いてもらえるだろうか」「こんな祈りをしたら間違っているだろうか」と、「**不安の中にあるわたしたちの願いを越える神の思い**」が、実現しています。「安心して行きなさい」と。これこそイエスによって示された福音のよろこびです。神の真実です。

日本キリスト教団浦河教会

# 週報

No.46 2021年2月14日



教会創立 1956年

〒057-0022

北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32

電話 (FAX) 0146-22-2904

牧師 五味 一

電話 (FAX) 0146-26-3043